

令和4年度

南伊豆町教育委員会

自己点検・評価報告書

令和5年9月

南伊豆町教育委員会

目 次

○ 趣旨、評価対象等	1 ～ 3
I 昨年度評価結果への対応	4
II 令和5年度 教育委員会の自己点検・評価シート	5 ～ 7
① 教育委員会の活動	5
② 教育委員会が管理・執行する事務	5
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	6 ～ 7
III 点検・評価への学識経験者の知見	

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会の活動等について点検・評価を行うことが義務づけられた。南伊豆町教育委員会は、例年、前年度分について報告書を作成、町議会へ報告しホームページによる公表を行っているところである。本年度は第 15 回目として、令和 4 年度分について同様の手順で行うものである。その目的は、有識者の知見や町民の意見をいただき本町教育委員会の課題や取り組みの方向性を明らかにするとともに、今後の信頼される教育行政の推進に活かそうとするものである。

2 点検及び評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主な施策・事業を対象として実施するもので、今回は令和 4 年度を対象とする。

(1) 教育委員会の活動

本町教育委員会は、毎月 20 日を基準日として月 1 回の定例会を開催している。本年度も、必要に応じて行う臨時会のほか、会議の運営、情報発信、事務局との連携、首長との連携などを点検・評価の対象とし、活動を検証した。

(2) 教育委員会が管理・執行する事務

主として「南伊豆町教育委員会の教育長に対する事務委任規則」（昭和 30 年 10 月 12 日）第 1 条に規定する教育長委任事務を除いた以下の項目を点検・評価の対象とした。

1. 教育行政に関する一般方針を定めること
2. 教育委員会の事務局及び教育機関の職員の罷免及び懲戒を行うこと
3. 教育委員会に関する条例等の制定・改正等を行うこと
4. 教育委員会所管の学校その他の教育機関の設置又は改廃に関すること
5. 県費負担教職員の罷免等に関すること（地教行法 38 条）
6. 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること（地教行法 43 条）
7. 重要な教育財産の取得を申し出たり、教育機関の敷地を選定すること（地教行法 28 条）
8. 重要な工事に関すること
9. 教育に関する事務の管理・執行状況の点検と評価（地教行法 26 条）
10. 教育委員会附属機関の委員の任命又は解任
11. 請願・陳情・訴訟についての処理の決定
12. 教科書採択に関すること

(3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

南伊豆町教育大綱の目標である「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」を念頭に、

- ① 子供の「生きる力」を育む、魅力ある充実した教育を推進します。
- ② 生涯学習社会の実現を目指し、町民が活用しやすい学びの場や環境を整備します。
- ③ 現代の重要課題に対応し、信頼に応える教育を推進します。

を方針として諸事業を点検・評価した。

3 点検・評価の方法

令和4年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取り組みの方向性について内部評価を行う。同時に学識経験者の知見を活用するため有識者委員会を組織し、ご意見ご助言をいただくこととした。

4 点検・評価のまとめ 本文4～8ページ参照

5 有識者委員会の知見 本文9～10ページ参照

有識者委員は次の方々をお願いした。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属
宇 田 忠 靖	教育関係者（元小学校長）
小 澤 義 一	教育関係者（前教育長、元小学校長）
高 橋 政 弘	教育関係者（元小学校長）

6 総合評価

「教育委員会の点検・評価」は、平素、合議により管理・執行している教育行政の在り方を振りかえる数少ない機会と捉えている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を十分した上で、学校行事や各種社会教育事業を可能な限り実施したが、新型コロナウイルス感染症対策により中止した事業の復活や、規模縮小としながらも継続が容易でないことを痛感し、改めて教育活動事業を見直す1年となった。

「大項目① 教育委員会の活動」では、住民の意思を反映し、地域の実情に応じた教育行政の推進を図ってきた。

また、幅広い分野に渡る業務を理解し、適切な判断を求められる点を考えると各種研修への積極的な参加により、研鑽を深めることが大切であると実感している。新型コロナ感染症対策で各種研修が中止となったが、定例会議での情報共有、意見交換をすることに重点を置いた。今後、研鑽を深めるための新たな委員会活動も検討していきたい。

「大項目② 教育委員会が管理・執行する事務」では、現在スムーズに進んでいると思われる。今後も関係機関や現場の状況を十分把握し、判断するためにも事務局との協議、現場の声の収集を心掛けたい。

「大項目③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」では、定例会議で事務局から実施している事業の進捗状況や今後実施する事業などを説明し、情報共有を図るとともに、点検・評価の場にもなっている。今後も情報共有の継続とともに、現場視察等も積極的に実施していきたい。

今年度、特筆すべきことは、ＩＣＴ活用推進である。

地域活性化起業人制度を活用し、エンジニア１名を派遣していただき、教育アドバイザーとして、小中学校を巡回し、ＩＣＴ活用による効果的な授業の在り方、教職員の業務負担軽減のためのＩＣＴスキル向上やWi-Fiなど、校内環境整備に至るまで、様々な支援をしていただいている。その甲斐あって、児童生徒が積極的に取り組めるような、ＩＣＴを活用した授業やグーグルチャットによる教職員間の情報共有により、質の高い授業づくりができるようになり、教員の意識が大きく変わった。児童生徒もタブレットを授業以外でも積極的に活用し、家庭への持ち帰りもしており、学習意欲が高まっている。

教育アドバイザーからはＩＣＴだけでなく、外から見た南伊豆町の教育を分析し、地域性を活かした教育に必要なことを提案していただき、教育委員会としても、やるべきことを具体的にイメージできるようになった。この機会を逃さず、学校と連携を図り目指すべき「南伊豆の教育」を推進していく。

また、国際理解教育の根幹をなすべく、各小中学校に常駐で配置したネイティブＡＬＴは、教職員の一人として児童生徒と多く関わりを持ち、日常的に英語が使われる場面が増えている。あわせて、夏休み期間を活用し、小学生及び大人対象の英会話教室を実施したが、工夫を凝らした内容に参加者からも好評の声を多くいただいた。今後も継続し、町民の方々にも国際理解の場を提供していきたい。

今回の点検・評価では、学校視察を実施し、現状を見ていただいた上で、ご意見・ご提案をいただいた。これらを今後の事務事業に反映させ、より効果的な教育行政の推進に努めていきたい。

令和５年９月

教育長 佐野 薫

I 昨年度評価結果への対応

1 教育委員会の活動

令和3年度分評価の指摘事項	令和4年度改善状況
① 町の教育について、町民へ情報発信をしてほしい。	① 「南伊豆町の教育」概要版を町内回覧した。今後も継続し、町の教育について情報発信をしていく。

2 教育委員会が管理・執行する事務

令和3年度分評価の指摘事項	令和4年度改善状況
① 少子化により、学校統合せざるを得ない状況であるが、跡地利用についての見通しと、旧三浜小学校、旧南崎こども園の利用状況はどうなっているか。	① 旧三浜小学校は施設の一部の貸し出しをしている。旧南崎こども園は民間の活用について前向きであるが、今年度の活用はない。 今後、学校統合も見据え、跡地利用の検討が必要になってくると思われるため、町としてのプロジェクトチームを立ち上げる方向で関係課と調整を図る。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

令和3年度分評価の指摘事項	令和4年度改善状況
① ICT活用は必須であるため、今後も教育のスキルアップをしていただきたい。	① 教育アドバイザーを1名配置し、教員のスキルアップ、負担軽減の支援を進めた。
② ICT活用がどのように進められているのか、町民に発信できるとよいのではないか。	② 今年度、全小中学校でのICT活用が進んだことから、来年度、広報紙などで、ICT活用を掲載し、情報発信していきたい。
③ 市町対抗駅伝のために練習するのではなく、年間を通じての体制ができると、南伊豆チームとしての自覚を持ち、取り組めるのではないか。	③ 指導者の確保（人選）が難しい。
④ スポーツ協会、文化協会の活動はどうか。	④ 高齢化、コロナ禍の影響で協会を脱退する団体が増えている。存続に向けた策を考えていかなければならない。

4 教育委員会事務局全般について

令和3年度分評価の指摘事項	令和4年度改善状況
① 学校教育環境整備委員会から中学校統合に向けての答申を受けたとのことだが、その後の進捗状況はどうか。	① 学校統合準備委員会を設置し、委員会を4回実施した。
② A L Tの活用はどうか。	② 南伊豆の生活にも慣れ、積極的に授業等に参加している。 夏休み期間には、小学生及び大人の英会話教室を実施した。

※「令和3年度分評価の指摘事項」は、「令和3年度自己点検・評価報告書」、「Ⅲ 点検・評価への学識経験者の知見」の指摘事項をまとめたものである。

Ⅱ－１ 令和４年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	点検評価
① 教育委員会の活動	(１) 教育委員会の会議の開催	①教育委員会会議の開催回数	定例会１２回を開催した。
		②教育委員会会議の運営上の工夫	会議に係長を出席させ、議案の内容説明、質疑対応など、効率的な会議運営を心掛けた。
	(２) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	一般の傍聴者なし。
		②議事録の公開、広報、公聴活動の状況	会議録の公開請求はなし。 教育委員会会議録を町ホームページ上で公開している。 また、町広報誌（広報みなみいず８月号）に教育委員の学校訪問時の様子を掲載した。
	(３) 教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	定例会への事務局長・係長の出席を実施した。
	(４) 教育委員会と首長との連携	教育委員会と首長との意見交換会の実施	総合教育会議を１回開催した。 「二十歳の集い」の名称決定と学校統合準備委員会設置及び委員会開催スケジュール等、中学校統合を中心に意見交換、情報共有を図った。
	(５) 教育委員の自己研鑽	研修会への参加状況	コロナ感染症対策で静岡県市町教育委員研修会は今年度も中止。年度当初、各学校実施のコンプライアンス委員会に教育委員が出席した。
	(６) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	６月１５日・１６日、町内小中学校を訪問し、校長から説明を受けた。
②所管施設の訪問		図書館、武道館（町史編さん室舎）を訪問し、職員等から説明を受けた。また、加納テニスコートと湯の花観光交流館展示室を視察した。	
② 教育委員会が管理・執行する事務	(１) 教育行政に関する一般方針を定めること		「令和４年度 南伊豆町の教育」を作成した。
	(２) 教育委員会の事務局及び教育機関の職員の罷免及び懲戒を行うこと		教育委員会事務局人事を町長及び総務課長に要望した。小中学校教職員人事異動の内申案を３月の教育委員会で報告した。 なお、平成29年度から賀茂地区指導主事３人を幹事町である当町の職員として登用している。
	(３) 教育委員会に関する条例等の制定・改正等を行うこと		規則制定５件、規則改正５件
	(４) 教育委員会所管の学校その他の教育機関の設置又は改廃に関すること		当該年度の該当はなかった。
	(５) 県費負担教職員の罷免等に関すること（地教行法38条）		教職員の懲戒はなかった。
	(６) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること（地教行法43条）		年度当初、各学校長から服務について教職員に指導、また、県教委でも学校訪問時に指導を実施している。
	(７) 重要な教育財産の取得を申し出たり、教育機関の敷地を選定すること（地教行法28条）		当該年度の該当はなかった。
	(８) 重要な工事に関すること		地方創生コロナ対策交付金を活用し、教育用情報ネットワーク環境構築工事、加納テニスコート整備工事（ネットフェンス取替、外構整備、コート整備）を実施した。公共施設ユニバーサルデザイン化事業助成金を活用し、南中小屋内運動場バリアフリー工事を実施した。
	(９) 教育に関する事務の管理・執行状況の点検と評価（地教行法26条）		点検評価に関する有識者委員会を２回開催。事務局からの原案説明を実施し審議及び委員からの知見をいただいた。報告書は議会に提出し、町ホームページに掲載した。
	(10) 教育委員会付属機関の委員の任命又は解任		任期満了となった付属機関の委員及び人事異動等により変更となった委員に委嘱書等を交付した。
	(11) 請願・陳情・訴訟についての処置の決定		当該年度の該当はなかった。
	(12) 教科書採択に関すること		当該年度の該当はなかった。

Ⅱ－２ 令和４年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	細項目	担当係	点検評価（上段：実績 下段：評価）
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	ふるさとを愛し、心豊かな人を育む	1 子どもの「生きる力」を育む、魅力ある充実した教育を推進します	(1) 家庭教育	社会教育係	●家庭教育支援員（２人）による、新入生の保護者を対象に南上小、南中小でミニ講座を実施した。 ●家庭での教育力低下が叫ばれる中、若い保護者に家庭教育の大切さを伝える機会として継続実施しているが、全学校での実施がむずかしくなっているため、新たな形での開催を検討する必要がある。
			(2) 幼児教育	学校教育係	●こども園と小学校の連携強化（こ小連携の強化）を目的に開催している園保育教諭と学校教諭をメンバーとした連携会議の継続により就学へのスムーズな体制が整っている。賀茂地区指導主事及び幼児教育アドバイザーも園や学校との信頼関係が構築され、研修等も積極的に実施している。 ●こども園と小学校の連携が図れる体制が整い、就学に向けての早期の対策及び情報共有ができています。
			(3) 学校教育全般	学校教育係	●GIGAスクール推進のため、地域活性化企業人制度を活用し教育アドバイザーとして、エンジニア１名を派遣していただき、ICTを活用した授業への技術支援、研修会の実施等、教員のスキルアップを図った。 ●特別教室へのWi-Fi環境整備実施、大型テレビ購入により、授業以外の様々な活動でICT活用ができるようになった。 ●全校にALTが配置され、それぞれが積極的に授業や学校行事に参加し、教員の一人として取り組んでいる。 ●支援を必要とする児童が増えているため、学習支援に必要な人材を確保し、配置した。 ●教育アドバイザーの派遣により、教職員のICTのスキルアップが図れたと同時に、積極的にICT活用をするようになった。 ●グーグルチャットにより教職員と教育委員会事務局とのコミュニケーションも図れるようになった。 ●ALTの配置により、児童生徒が授業以外でも英語でコミュニケーションを図るようになった。 ●臨時教諭、支援員の任用は教員の多忙化解消にもつながっているが、人材不足のため、確保がむずかしくなっている。
			(4) 小学校教育	学校教育係	●新型コロナ感染症対策をした上で、コロナ前と同様の行事を実施した。 ●大型テレビ購入（南上小・南伊豆東小）、第２保健室環境整備（南上小・南伊豆東小）、消防設備、防火設備の不良個所の修繕等を実施した。 ●コロナ前に近い学校生活が送れるようになり、児童は様々な経験ができた。 ●ICT環境が整ったことで、タブレットを活用した授業、家庭への持ち帰りが増えた。 ●老朽化により修繕箇所が多いが、今後の施設維持について計画的に進めていく。
			(5) 中学校教育	学校教育係	●ICTの環境が整い、生徒も積極的にタブレットを活用するようになり、ICTに対する意識の変化が見られた。 ●消防設備、防火設備不良個所等の修繕を実施した。 ●部活動の大会、練習試合等で町マイクロバスの利用ができるよう、調整を図った。 ●教育アドバイザーの支援により、教職員、生徒が積極的にICTの活用をするようになったが、今後、より効果的な活用を検討していきたい。 ●保護者等へのお知らせ等についても、ICT活用を進めていく。 ●老朽化により修繕箇所が多いが、学校統合を見据え、施設維持を進めていく。
			(6) 学校給食	学校教育係	●南中小給食調理場のスチームオープン購入、南伊豆東小給食調理場の食器洗浄機を旧三浜小学校から移設した。その他、安全な給食提供のため修繕等を行った。 ●地産地消、高校との連携を目的に給食食材に南伊豆分校産の野菜を取り入れた。 ●調理場の機器が老朽化してきているため、今後の修理及び買換えについて、給食調理に支障をきたさないように予算計上する。 ●南伊豆分校の植物工場で栽培したほうれん草を活用した給食を試みたが、単価が高いため、定期的な活用はむずかしい。
			(7) 高等学校教育との連携	学校教育係	●新型コロナ感染症対策をした上で、事業縮小となったが、地元の下田高校南伊豆分校との交流・連携を目的とした南伊豆認定こども園との農業体験交流等を行った。 ●地域連携研修会及びはごろも「夢」講演会で町教職員及び分校教職員との意見交換を図った。 ●南伊豆分校の更なる魅力化を目的とした魅力化推進協議会を２回、開催した。 ●こども園をはじめ、小中学校との交流も深まっている。地元で活躍できる人材の育成につなげていきたい。 ●魅力化推進協議会については魅力化につながる具体的な施策までの検討ができていないが、情報共有により引き続き、検討していきたい。
			(8) 青少年健全育成	社会教育係	●夏季休暇、年末年始休暇に関係機関と協力し、町内補導パトロールを実施した。「青少年問題協議会」を２回開催した。 ●特に問題も生じておらず、現状のまま継続したい。

Ⅱ－３ 令和４年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	細項目	担当係	点検評価（上段：実績 下段：評価）
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	ふるさとを愛し、心豊かな人を育む	2 生涯学習社会の実現を目指し、町民が活用しやすい学びの場や環境を整備します	(1) 学習機会の充実（小学生～高齢者）	社会教育係	●小学生対象のふるさと学級は新型コロナ感染症対策をした上で、ハンギングバスケットづくり、サマーキャンプ、川の生き物調査、スキー教室、ジビエクッキングを実施した。 ●小中学生対象のハローボランティア事業は例年通り実施した。 ●夏季休業中に、ALTを講師に小学生、大人を対象にした英会話教室を実施した。
			(2) 図書館の利用推進	社会教育係	●文学記念室建設に際し寄付をいただいた方、関係機関等に対し、石垣りん未刊詩集を送付した。 ●イベント開催による利用者の増加に努めた。
			(3) スポーツ・レクリエーションの振興	社会教育係	●3年ぶりにスポーツフェスタ開催。 ●静岡県市町対抗駅伝競走大会に参加した。 ●加納テニスコートの外構等整備、トイレ設置等を実施し、7月から料金徴収を始めた。
			(4) 生涯学習環境の整備	社会教育係	●フェスタ南伊豆実施に伴い、スポーツフェスタも実施したが、スポーツ協会の自主事業として、できるイベントを検討していきたい。 ●静岡県市町対抗駅伝競走大会ではふるさと賞を受賞した。 ●加納テニスコートは町内外の利用者が増えてきているが、より利用しやすい施設にするため、予約方法等を改善していく。
			(5) 歴史・文化資源等の活用	社会教育係	●町内で教育委員会が所管する社会教育施設は、図書館、武道館、加納テニスコート、郷土資料館別館であるが、図書館の女性トイレ洋式化工事を実施した。なお、武道館については平成30年度からシルバー人材センターへ施設の管理を委託している。 ●経年劣化により図書館、武道館はいずれも不具合が生じてきているため、今後は公共施設長寿化計画に則り、適正な維持管理に努めていきたい。 ●加納テニスコートはトイレの設置を実施し、利用者の利便性を高めることができるようになったので、テニス大会開催や宿泊誘致など、関係機関と検討していきたい。
			(6) 文化活動の推進	社会教育係	●新型コロナ感染症対策をした上で、3年ぶりに芸術祭、芸能部門発表会を実施した。 ●南伊豆町史「通史編」について町史編さん委員と南史会で執筆作業を昨年度に引き続き進めた。 ●町史資料のため、加納矢崎城発掘調査を実施した。
					●町文化協会自主事業として、3年ぶりに芸術祭、芸能部門発表会を開催したが、加盟団体数が減っているため、今後の文化協会の在り方について検討する必要がある。 ●南伊豆町史「通史編」を令和5年度発刊予定。

※ 大項目③の教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務における中項目、小項目については、「南伊豆町の教育」の目標及び方針による。

Ⅲ. 点検・評価への学識経験者の知見

前掲の学識経験者3名の方々にお集まりいただき、「南伊豆町教育委員会自己点検・評価報告書」（案）に基づき説明し、委員各位から感想や意見をいただいた。

また、今年度は学校現場の視察も実施し、現状をみていただいた。

以下は指摘事項をまとめたものである。

【指摘事項】

（１）教育委員会の活動

①「教育委員会と首長との連携」

- ・学校統合準備委員会の進捗状況を町長と共有していただいているが、町民が希望の持てる統合になるよう、町の大きなプロジェクトの一つとして、より一層連携を図っていただきたい。

（２）教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

①「学校教育全般」

- ・ＩＣＴ推進の現状を広く広報し、多くの方に学校教育を理解していただきたい。
- ・教員は賀茂地域内での異動があるため、広域的に教員のスキルをレベルアップできるよう、賀茂地域内での連携を図っていただきたい。

②「高等学校教育との連携」

- ・こども園、小中学校と南伊豆分校の交流は当町の特色であり、貴重な経験の場であるので、今後も継続していただきたい。

③「学習機会の充実（小学生～高齢者）」

- ・ハローボランティア事業を継続するためにも、事業者及び参加者へのアンケート調査を実施し、今後を活用していただきたい。

(3) 教育委員会事務局全般

令和4年度は新型コロナも落ち着き、全体的にコロナ禍前に戻りつつあったと思われる。

しかし、コロナ感染症対策の3年間がもたらした影響は大きく、特に社会教育においては、高齢化もあり、様々な事業の継続が厳しくなっている現状が浮き彫りになったと感じている。

学校教育関係では、今回、小学校を訪問したことで、教育現場の現状を見ることができた。そのなかでも、ICT推進については、予想以上にパソコンが活用されており、児童が積極的に取り組んでいる様子から、高く評価するとともに、より一層の推進を期待する。そのためには教員のスキルアップが必須であるが、事務局からの説明のとおり、専門知識を有する教育アドバイザーの存在が大きいものと思われる。多様化する学校現場へのニーズに対し、教職員が適応できる技術を身に付け、町外の学校へ異動しても積極的にICT推進ができる人材育成を進めていきたい。

社会教育関係では、生涯学習として様々な事業を実施しているが、新型コロナが大きく影響し、各種団体の存続が厳しい現状から、事業継続が前年度より難しくなっており、今後の対策に苦慮されるが、まずは現状維持にご尽力いただきたい。

最後に、少子高齢化、人材不足等、教育委員会だけで解決できるものではないが、南伊豆町の教育大綱で目標としている「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」を常に意識し、次世代を担う子どもたちがふるさと南伊豆に誇りを持てるよう、地域・町民と連携し、引き続き取り組んでいきたい。